

## 論文要旨

**目的：**本研究では、親子健康手帳の活用の実際と有用性を評価し、親子健康手帳を有効に活用する方法を考察することを目的とする。

**方法：**本研究においては、内容分析の手法を用いて、親子健康手帳の4つの機能「1. 健康記録」「2. 情報・学習教材」「3. 医療者とのコミュニケーションツール」「4. 父親参加のツール」の分析を行い、有効な活用について検討した。2014年10月～11月に関西地区K市の保健師4名、10か月健診・1歳半健診にきた母親5名の研究協力者に対し半構成式面接にてインタビュー調査を実施した。「聖路加国際大学大学院研究倫理審査委員会」の審査（研究倫理審査委員会承認番号：14-050）を経て実施した。

**結果：**健康記録の医学的・個人的記録は、保健師・母親ともに【母子の健康管理の記録】となっていることを示していた。個人的記録に関しては、産後の母の健康記録と、乳児期の子どもの記載欄が少ない点が機能の不足点として上げられた。情報・学習教材は、保健師・母親ともに【知識の啓発としてのツール】の役割を果たしていることが示された。また、特に育児期の母親にとっては、育児不安などに対して【精神的な支え】の役割を果たしていた。不足点は、各自治体の社会資源の情報を入れられるデザイン工夫が求められていた。医療者とのコミュニケーションツールは、保健師は記載された内容を参考に母親とコミュニケーションをとり、十分に活用していた。しかし母親は積極的に活用している者と、ほとんど活用していない者へと二分された。活用していない親からは、関わった医療者も使用せず、活用も促されていない状況であることがわかった。父親参加のツールは、保健師から交付時に父親参加について十分な説明ができていなかった。また両親が積極的に活用している者と、活用していない者へと二分された。活用している親でも、多くの場合は親子健康手帳を一緒に見るよう、母親が父親へ参加を促していた。

**結論：**1. 健康記録：母子の健康管理の記録としての機能を果たしていた。

2. 情報・学習教材：知識啓発のツール、精神的な支えとして役割を果たしていた。今後、各自治体の社会資源の情報を入れられるようなデザインの工夫をすることで、役割が充実する。

3. 医療者とのコミュニケーションツール：積極的に活用する親や医療者間では、お互いに情報交換ができており、相互作用のツールとしての役割を果たしていた。今後、親子健康手帳が、親子を取り巻く医療者間の連携ツールとして、包括的な親子へのケアを担うことができる。

4. 父親参加のツール：父親参加のツールとして活用できている親は少なく、保健師も父親参加のための支援は不足していると感じていることから、全体的に果たしている機能は不十分であった。今後、保健師など親子を取り巻く医療関係者が、積極的な活用を促していくことができれば、両親の育児協力体制構築への一助になるといえる。